

脾胃虚 胸痛 諸濕 勞察

〔類聚名物考 地理 三十五〕 四万温泉之來由記

抑上野國吾妻郡四万の郷の温泉は、○中 淡味在、鹹味有、或は浴、或は蒸、能百病を治る事妙ニして、  
誠に無雙の名湯也、○中

一第一血分を増 一頭痛上氣 一蟲一切之をやくつかへ 一腹痛打身、まだん、わうだん、一  
疝氣、すんぱく、一痰、せき、痔、痲病、一てんかん、かくの煩ひ、ないそんひいきよ、てうまん、中症、下  
血、吐血、勞症、虚勞、氣のつき、

一女中一切の血煩、月水不順、血懷、血蟲、をやくつかへ、一切眼病に妙なり、其外濕、ひせん、水蟲、多蟲、  
なます、漆かせ、をらくも、がんがさ、面瘡、いぼ、其外何共知れざる煩は、別而功能早速也、  
總て虚症の人は、精氣を増、其外功能勝計りがたし、有増記之者也、

四万湯本

田村文左衛門

〔鹽原考〕昔は鹽原湯泉八ヶ所と云ひしが、今は其所或は廢し、或は湯涸れて、延寶の始地震有りて、  
又鹽原の湯は涸れ失けるよし也、今の所と云ふは、福綿戸、鹽竈、旗下戸、門前、古町、鹽の湯、簀卷、新湯、  
甘湯等也、○中 左に湯泉の効能ををるす、

福綿戸

岩の湯 薄赤く濁り、色鹽氣あり、 大熱湯 主治 疝氣 寸白 脚氣 諸虫 積聚

橋本湯 色清く少し鹽氣有甚あ 中熱湯 主治 腹痛 手足瘡

冷の湯 色清し 大冷湯 主治 頭痛 痰 眼疾

鹽竈